

目次

I 章 はじめに	
1 ガイドライン作成の経緯	2
2 ガイドラインの使用上の注意	3
1. 使用上の注意	3
2. 構成とインストラクション	4
3. 他の教育プログラムとの関係	4
4. 本ガイドラインの限界と今後の検討課題、 定期的な再検討の必要性	5
3 推奨の強さとエビデンスレベル	6
1. エビデンスレベル	6
2. 推奨の強さ	7
3. 推奨の強さとエビデンスレベルの臨床的意味	8
4 用語の定義と概念	10
II 章 背景知識	
1 呼吸困難のメカニズム	14
1. 呼吸の調節機構	14
2. 呼吸困難の発生	14
① 呼吸困難の発生に関与する受容器	14
② 呼吸困難の発生のメカニズム	16
3. 呼吸困難の発生、認知、表出のメカニズム	16
2 呼吸不全の病態生理	18
1. 呼吸不全	18
① 肺胞低換気	18
② 換気血流比不均等	19
③ 拡散障害	19
④ シャント（右左シャント）	20
2. 換気障害	20
① 閉塞性換気障害	20
② 拘束性換気障害	21
③ 混合性換気障害	21
3 呼吸困難の原因	22
1. 呼吸困難の原因	22
① がんに関連した原因	22
② がん治療に関連した原因	22
③ がんとは関連しない原因	22
4 呼吸困難の評価	24
1. 使用が推奨されている評価尺度	24
① 呼吸困難の量的評価尺度	24
② 呼吸困難の質的評価尺度	26
③ 呼吸困難に伴う機能評価尺度	26
2. 医療者による呼吸困難の評価	28
3. まとめ	29
5 身体所見と検査	32
1. 問診	32
① 現病歴	32
② 既往歴・生活歴	32
③ 増悪因子・軽快因子	32
2. 身体所見	33
① 視診	33
② 触診	33
③ 打診	33
④ 聴診	34
3. 検査所見	34
① 動脈血ガス分析／経皮的酸素飽和度	34
② 血液検査	35
③ 画像検査	35
6 薬剤の解説	37
1. オピオイド	37
① モルヒネ	37
② コデイン	37
2. コルチコステロイド	37
3. ベンゾジアゼピン系薬	37
4. 気管支拡張薬	38
① β （受容体）刺激薬	38
② 吸入コルチコステロイド薬	38
③ 抗コリン薬	38
④ 吸入抗コリン薬	39

Ⅲ章 推奨

● 推奨の概要	44
1 酸素療法	47
● 呼吸困難を訴えているがん患者に、酸素吸入は有効か？	47
2 薬物療法	52
1 モルヒネ	52
● 呼吸困難を訴えているがん患者に、モルヒネは有効か？	52
2 モルヒネ以外のオピオイド	57
● 呼吸困難を訴えているがん患者に、モルヒネ以外のオピオイド（コデイン、オキシコドン、フェンタニル）は有効か？	57
3 コルチコステロイド	61
● 呼吸困難を訴えているがん患者に、コルチコステロイドの全身投与は有効か？	61
4 ベンゾジアゼピン系薬	63
● 呼吸困難を訴えているがん患者に、ベンゾジアゼピン系薬は有効か？	63
5 フロセミド吸入	67
● 呼吸困難を訴えているがん患者に、フロセミドの吸入投与は有効か？	67

Ⅳ章 関連する特定の病態の治療と非薬物療法

1 特定の病態に対する治療	70
1 悪性胸水	70
1. 定義	70
2. 疫学	70
3. 原因	70
4. 治療	70
1 胸腔穿刺	70
2 持続排液	70
3 胸膜癒着術	71
4 胸腔腹腔シャント	71
5. 治療選択の考え方	72
2 咳嗽	74
1. 定義	74
2. 疫学	74
3. 他症状との関連, 合併症	74

4. 原因と分類	74
1 原因による分類	74
2 性状による分類	74
5. 治療	75
1 原因に対する治療	75
2 抗がん治療	76
3 原因薬物の中止, 誘因の回避	76
4 非薬物療法	76
5 対症療法（鎮咳薬）	76
6. まとめ	77
3 死前喘鳴	79
1. 定義	79
2. 疫学	79
3. 原因と分類	79
4. 薬物療法	79
5. 非薬物療法・看護ケア	80
6. 輸液の調整	80
7. まとめ	80
2 非薬物療法	82
1 看護ケア	82
1. 呼吸法のトレーニング	82
2. 送風	83
3. 看護師によるフォローアッププログラム	83
4. 身体的・精神的側面のサポートを統合した呼吸困難マネジメントプログラム	84
5. ケアマネジメント	85
6. 音楽を聴きながらの歩行やエクササイズ：DAS (distractive auditory stimuli)	86
7. まとめ	87
2 呼吸リハビリテーション	89
1. 呼吸リハビリテーションの目的	89
2. 対象	89
3. 呼吸リハビリテーションの構成要素	89
4. がん患者に対する呼吸リハビリテーション	90
1 呼吸リハビリテーションの考え方	90
2 運動療法	90
3 呼吸理学療法	91
3 精神療法	93
1. 呼吸困難に対する精神療法	93
2. まとめ	93

4 リラクゼーション	95		
1. リラクゼーション法を含む複合的介入方法	95		
2. 単独介入としてのリラクゼーション法	95		
① イメージ療法	96		
② 漸進的筋弛緩法	96		
3. まとめ	97		
5 補完代替医療	98		
1. リフレクソロジー	98		
2. 鍼灸	98		
3. 指圧	99		
4. 補完代替医療の位置づけ	99		
5. まとめ	99		
V章 資料			
1 作成過程	102		
① 概要	102		
② 臨床疑問の設定	102		
③ 系統的文献検索	102		
④ ガイドラインと教科書	103		
⑤ 妥当性の検証	104		
⑥ 日本緩和医療学会の承認	105		
2 文献検索式	106		
3 海外他機関によるガイドラインの要約	109		
1. NCCNの緩和ケアに関するガイドライン (2009, NCCN)	109		
		2. 緩和ケア：エビデンスに基づいたACCPの 臨床ガイドライン (2003, Chest)	110
		3. 肺がんの緩和ケア：エビデンスに基づいた ACCPの臨床ガイドライン(2007, Chest)	112
		4. 肺がんに伴う慢性咳嗽：エビデンスに基づ いたACCPの臨床ガイドライン (2006, Chest)	113
		5. 終末期患者の緩和ケア：エビデンスに基づ いたACPの臨床ガイドライン (2008)	113
		6. がん患者の倦怠感, 食欲不振, うつ, 呼吸困難 に対するエビデンスに基づく推奨 (2008, JCO)	114
		7. がんによる呼吸困難に対するエビデンスに 基づいた対処法 (2007, ONS)	114
		ガイドラインプールリスト	115
4 今後の検討課題	116		
① 今回のガイドラインでは, 対応しなかった こと	116		
② 用語の定義, 背景知識	116		
③ 今後の検討や, 新たな研究の必要なこと	116		
		索引	118